

ふくしまの魅力人

# 福島を拠点に強靱なメンタルで戦い続けるエアレース・パイロット

2015年5月、「福島市ももりん大使」に任命された室屋義秀さんは、世界で14人しか参戦できない「レッドブル・エアレース」のマスタークラスに参戦しているエアレース・パイロットです。2013年には、スイスの民間アクロバット飛行チーム「ブライトリング・ジェット・チーム」を日本に招きました。また、今年行われたエアレース・ワールドチャンピオンシップ日本大会開催にも尽力しました。空から地上を見ると、本当に大切なものが分かるという室屋さんに、スカイスポーツの魅力やこれからの目標などを伺いました。



©Taro IMAHARA/PATHFINDER

エアレース・パイロット  
福島市ももりん大使  
むろや よしひで  
**室屋 義秀 さん**

### Yoshihide Muroya PROFILE

1973年生まれ。1998年より福島市在住。アニメ「機動戦士ガンダム」に憧れ、20歳の時に米国でパイロットのライセンスを取得。1998年、エアショー活動を開始。2009年、世界最速を誇る「レッドブル・エアレース」に初参戦。2014年、自身初の3位表彰台を果たすなど国内のみならず世界を舞台に活躍。その一方で、NPO法人ふくしま飛行協会の理事として航空啓発活動、スカイスポーツ振興にも取り組む。

### 大空を自由に飛び回りたい 19歳で叶えたソロフライト

360度の大空を使って自由自在に飛び回りたいと夢見ながらも、小学生から高校生までサッカーをしていたという室屋さん。「大学の航空部に入部してから一気に夢が現実になっきました」。訓練を重ね初めてグライダーで空を飛んだのが19歳の時でした。「ソロフライトは、文字通り離陸から帰還まで一人。頼れる人はいませんから途中であきらめてはいけません。限界手前の自己コントロールなど、スカイスポーツの世界は奥が深い。準備が整っても悪天候で延期になったりもします。初ソロフライト

### ふくしまスカイパークを拠点に 世界の空で活躍

十分に練習ができる拠点がほしいと探していた時、緑の中に真っ直ぐに伸びる「ふくしまスカイパーク」の滑走路を空から見ると、この場所を拠点にすると決めたとのこと。「練習させてもらおうと立ち寄ったら地元の人々が皆さんいい方だったこと、首都圏から福島に飛んでくると福島県内上空から澄んだ空気になり緑もきれいで素晴らしい環境だったこと。この2つが決め手になりました」

イトの覚悟と達成感は、今も鮮明に覚えています」

「操縦技術世界一」を目指して



©Jason Halayko/Red Bull Content Pool



▶今年ふくしまスカイパークで行われた農業きぼう祭

### 辛い時ほど空を見て 強い福島を創って行こう

スカイスポーツの魅力を室屋さんに伺うと「自由に飛ぶというのは、我々が暮らす3次元とは違う視点、感覚、考え方を味わえることです」

東日本震災の年には、ふくしまスカイパークが救助支援ヘリコプターの基地になり、室屋さんも避難所の子どもたちを招待してエアショーを行いました。その後も、世界中のレースで活躍しながら、福島でのイベントにも参加し続け、皆に勇気を与えるフライトを披露してくれています。

空から地球を俯瞰して見ると価値観が変わります。ぜひ、子どもたちにも経験させたいと思いついてNPO活動にも力を入れています」と話されました。「操縦技術世界一」を目指して、懸命に取り組み道場を切り開いてきた室屋さんは、震災後の福島に自身のことまで重ねてこうも語ります。「日々の努力が10年後の福島を創るように思います。今の福島は可能性の塊です。困難を乗り越えていく事実の積み重ねが、『福島』と聞くだけで『強い』というイメージにつながり、『福島』ブランドになっていくように思います」皆さんも大空を駆け巡る室屋さんのフライトを、一度ご覧になってはいかがでしょうか。

### 10月以降のスケジュール

10月17日(土) レッドブルエアレース  
18日(日) World Championship  
アメリカ ラスベガス



©Tomislav Moze/Red Bull Content Pool

※試合はNHK (BS1) で放送予定。